

地A地研たより

2019年7月20日

No. 46

発行者 有村宏紀

文責 黒瀧善和

失われた地名を探つて

今年度の探査会は、岩見沢の住宅地図に記載された地名とアイヌチャシを中心に市内を巡ります。岩見沢は、「幌向」「志文」「孫別」「利根別」など、アイヌ語由来と考えられる地名はいくつかあるものの、それほど多くはありません。これまで研修会などで話題になっている通り、それは、縄文海進期には北海道中央低地に海水が浸入して海水面が上がると共に、海面が低下した後も、石狩平野は、そこを流れる蛇行した石狩川の氾濫原として湿地が広がり、現在の平野部に人々があまり生活していなかったためと考えられます。それでも、やや高まった丘陵を狩り場としたのか石器が出土したり、丘陵の麓には、縄文期の土器・石器、擦文期の遺物が多数発掘されており、そのような場所に連綿として人々が生活してきたと思われまふ。これまでも探査会では、周堤墓（キウス・野花南）や穴居跡（岩内遺跡）などを巡り、アイヌ期以前の北海道について探ってきました。岩見沢郷土科学館では「一発掘された先史の遺跡一」



として、石器時代から擦文期にかけての遺跡から出土した遺物が展示されており、太古の様子を知る手がかりの一つとなります。今回の探査会では、遺物の発掘場所もいくつか巡り、科学館担当者から専門的な説明を頂く予定です。



「北海道の地名」P38 山田秀三:草風館

左図で見ると、岩見沢は幾春別川と幌向川・利根別川に挟まれた



「ペンケトネベツ」と「ポントネベツ」との合流部

ところに位置しています。現在は流路が変わったり、町名変更で場所の名前や元の地名がわからなくなったところがたくさんあります。今回、住宅地図から「発見」した「ペンケトネベツ」について、実際に現地を

巡り、川がどのように変わったか、また、地名の変遷についても検討したいと思います。

企画展「考古学からみた岩見沢一発掘された先史の遺跡一」 科学館 HP より

岩見沢市には旧石器時代からアイヌ文化期にかけての遺跡が59カ所確認されています。東山4遺跡（玉泉館跡地公園周辺）からは7軒の竪穴式住居が発見され、幌向A遺跡（豊中学校）からは擦文時代の遺物が出土しています。私たちが生活する身近な場所にも遺跡があり、かつて太古の人びとが暮らしていました。

遺跡から出土した資料や遺構は、当時の人びとを知る貴重な手がかりになります。企画展では、こうした手がかりから岩見沢ができる前の歴史について迫ります。なお、これまで未公開だった資料や大正池で発見された新資料も展示しますので、是非ご覧下さい。



利根別・パンケトネベツ付近地図(カシミール3D地図に加筆)

トネベツ(to-ne-pet,tunni-pet
to:沼 ne:のようである pet:川
tunni:柏の木とも考えられる)

岩見沢市街地を流れており、河川改修で幌向川に合流する川である。しかし、元々はJR室蘭線分岐付近で、幾春別川と合流していた。標高差の少ない所を流れるため、流れが遅く沼のようである。

パンケトネベツ(penke-to-ne-pet)
penke:川上の・・・pankeと対

今回、住宅地図より見つけれられた川名。「パンケ」とあるので、対になる「パンケ」の存在も推定される。また、「トネベツ」の支流なので、元々は、「パンケ(ポン)トネベツ」とも考えられる。パンケトネベツは東利根別？

前頁「北海道の地名」地図
キヨマップ(ki-oma-p)

ki:葦、茅など
oma:そこにある
p:もの

クッタリ
(kuttar-ush-i)

kuttar:イタドリ
ush:群生する
i:(ところ)

ポントネ(pon-to-ne-pet) pon:子である トネベツの子の川(支流)

8月8日
予定を一部変更しました

今回、科学館で、先史時代の遺物が展示されています。この機会に、時間を確保し見学したいと思います。

昼食場所についても、以下のようになりますので、ご予約ください。

なお、集合時間・場所のご案内の通りです。

- ・集合時間 8月8日 9時
- ・集合場所 岩見沢郷土科学館(岩見沢公園)
(地名研受付で受付ください)

<日程>

企画展見学→遺跡場所→パンケトネベツ探査(徒歩)→
遺跡場所→昼食休憩(イオン岩見沢店)→
遺跡・クッタリチャシ跡→科学館

※アイヌクワガタは、時間の関係から次回以降とします。

チャシ(chasi) 砦 館 柵 柵囲い
知里真志保は「チャシとは山の上にあつて割木の柵を巡らせた施設を指す語であるとされる」としている。

チャシの成立時期は不明であるが、擦文文化期の遺物や遺構を伴うチャシコツが見つからないことから、宇田川洋は最も古くても14世紀が限界ではないかと指摘している。

(Wikipedia)



クッタリチャシ跡